

天国とは（コロナウイルスの無い国）

この地上には多くの国があり、様々な文化、風習の違いがあります。ある人は〇〇の国を憧れて「〇〇国に永住したいと願います。しかし、どこの国でも病があり、悲しみ、苦しみがあります。アブラハムと言うイスラエル民族の先祖は色々な辛い境遇に出会いましたが、神に対する篤い信仰によって困難を克服できました。彼はこの世では旅人であることを認め、信仰を持って、揺るがない土台の上に建てられた天の故郷を待ち望んでいました。（旧約聖書創世記一二～二五章）

イスラエルの民をエジプトの奴隷の生活から解放したモーセは神の前に次のように祈りました。「主よ 代々にわたって あなたは私たちの住まいです。山々が生まれる前から 地と世界を あなたが生み出す前から とこしえからとこしえまで あなたは神です。あなたは人をちりに帰らせます。『人の子らよ 帰れ』と言われます。千年も 昨日のように過ぎ去り 夜回りのひと時ほどです。あなたが押し流すと 人は眠りに落ちます。朝には 草のように消えています。朝、花を咲かせても うつろい夕べには しおれて枯れています。・・・私たちの齢は七十年。健やかであっても八十年。そのほとんどは 労苦とわざわいです。瞬く間に時は過ぎ、私たちは飛び去ります。」（旧約聖書詩篇九十篇）

新約聖書に出て来る偉大なキリストの伝道者パウロは語りました。「たとえ私たちの地上の住まいである幕屋が壊れても、私たちには天に、神が下さる建物、人の手によらない永遠の住まいがあることを、私たちは知っています。私たちは子の幕屋にあつてうめき、天から与えられる住まいを着たいと切望しています。」（新約聖書コリント人への手紙第一、五章一、二節）。彼も天国に希望を抱いていたのです。あなたも同感ではありませんか。

聖書は、天国に関して「新しい天と新しい地」「聖なる都」と分かりやすく描いています。その都の輝きはたとえようもなく美しいのです。「身よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。神は彼らの目から涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死もなく、悲しみも、叫び声も、苦しみもない。」（新約聖書ヨハネの黙示録二一章三、四節）

天国とは靈魂のふるさと

天国とは人が死んだ時、その体に宿っていた靈魂が戻って行く天のふるさとです。そこには天地宇宙の創造者なる神（天のお父様）が私達を待っておられます。

天国はどこに

聖書はこの神秘的な天国の場所を「蜜雲の頂、星々のはるか上、北の果てにある会合の山」と象徴的に記しています。そこは「靈界」とも言われ、救われた者たちが救い主イエス・キリストを賛美し、礼拝を捧げている所です。

天国に行く資格

人間は誰でも天国に行く資格があります。それは、愛なる神がご自身の独子イエス・キリストを全人類のためにこの世に遣わし、十字架に架けて、身代わりに罪の刑罰を受けさせられたからです。この真理を信じる人はどんな罪深い人でも天国に行くことができます。しかし、聖書は次のように警告しています。

「臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行ふ者、魔術を行ふ者、偶像を拜む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」（新約聖書ヨハネの黙示録二一章八節）。

天国は只一か所、他には無い

日本には多くの宗教があり死んだなら天国に帰ると言いますが、イエス・キリストを信じること

が唯一の道です。五年前に私は台湾の「馬祖」と言う女神の寺の管理者と話し、最後に私が「あなたはこの世を去った後どこへ行かれますか。」と尋ねると、しばらくして彼は「私は天国に行く資格はありません。地獄以外に行くところはありません。」と小声で語ったのです。しかし、この人は聖霊の助けで、その日に主イエス様を信じ罪の救くわれ、馬祖の管理者を辞職してキリストにある新しい人生に生まれ変わりました。今は生ける神から豊かに祝福されて、意義ある人生の旅路を歩まれています。人の命はいつどうなるかわかりませが、彼はすでに天国行のパスポートを持っています。私も持っています。あなたはお持ちでしょうか。もし、まだお持ちでないなら、十字架があり、聖書をそのまま信じ、喜びと、きよさに満ちている教会に一日を早くお出かけください。よければ私たちの教会にも足をお運びください。ここからお越しをお待ちしております。

台湾宣教師 ながき 永貴 ともひろ 智寛